

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.10

“やさしく かしく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和3年9月14日 文責:安生昌弘 あんじょうあきひろ

◆ 大谷翔平選手の“人間力”

ベースボール・メジャーリーグへ挑戦中の大谷翔平選手がアメリカ合衆国で絶賛されています。それは、投打二刀流としての活躍ばかりでなく、ファンへの誠実な接し方、チームメイトやスタッフへの温かい心遣い、グラウンドのゴミをさり気なく拾う行為などから優れた人間性に多くの人が魅了され、応援したくなるからだろうなと思っています。大谷選手が相手チームのバッテリーにデッドボールを投げてしまった時などにも、メジャーリーグでは乱闘やデッドボールの報復に発展するのが常であるのに、「大谷がわざとぶつけるわけがない」というように相手チームは冷静です。大谷選手の活躍は能力ばかりでなく人格も兼ね備えている、言うなれば“人間力”に支えられているのではないかと感じています。



ところで、学校教育は何を目的として行われているかご存知ですか。実は、学力を高めることとよりよい集団生活を通して、子どもの『人格』を完成させていくことなのです。ですから、学校の目標にも「かしこく」ばかりでなく「やさしく」や「たくましく」があるわけです。ここが学習塾や保育との違いで(人格を完成させようと力を尽くしている塾講師や保育関係の方がいたら、すみません)、先生達は学習指導の他に生徒指導や生活指導に日夜、力を尽くしているのです。大谷選手の能力と人格を兼ね備えた“人間力”は学校教育の究極の目標であると感じています。ですから、その素地を全ての児童に身に付けることが船小の使命であるとして、「大規模校の底力を見せよう」を合言葉に全職員で力を合わせ、子ども達の心を育てています。

◆ 今こそ必要な“思いやりの心”

大谷翔平選手が「大好きな野球を多くの子ども達にも好きになって欲しい」と考えていると聞きました。(一昨年、船引中で講演をした 2020 東京五輪柔道金メダリスト大野将平選手も「皆さんの」心が動いたのなら光栄です」と述べていました) そこには自分のためではなく、周囲や全体のために何かをしたいという思いが感じられます。わが妻などは「どうしたら、大谷君のような子を育てられるの?」という位、すっかり魅了されています。私は、大谷選手の出身地である岩手県が生んだ作家“宮沢賢治”の影響ではないかと勝手に考えています。



宮沢賢治は自身の死後、ようやく世間に認められて多くの童話が出版された作家ですが、全て人としての生き方への示唆に富んだ作品ばかりです。私が好きな童話としては、度十(けんじゅう)という若者の植えた 700 本の杉苗が、自身の死後 20 年を経て、暑い日に子ども達の涼しい木陰の遊び場所になり、そこに若者の名前が付けられる『度十公園林』。また、孤児であった若者が犠牲となって火山を爆発により噴火させ、気候を変えて東北地方の冷害を防ぐ『グスコーブドリの伝記』等があります。いずれも「一人は皆のために…」という賢治の思いを感じさせます。

賢治は著作の中で『世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない』と述べています。この「一人は皆のために…」という考え方が幼少期から高校までを岩手県で過ごした大谷選手に影響を与えないはずはないだろうと考えているのです。船小でも道德の授業や『田村の子 心の道標』の「こ:心優しく、思いやりのある子ども」を唱和したり、ボランティア活動に取組んだりして“思いやりの心”を育てています。新型コロナウイルス感染症に罹ってしまった人やその家族に優しく接し、みんなでコロナ禍を乗り越えるためにも今こそ必要であると思います。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。

